

日刊 動労千葉

81.11.9

No. 890

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆(国)22七二〇七

右翼的労働戦線「統一」問題を考える 5

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎!

動労「本部」革マル反動分子の反動性について
今回は、右翼労働戦線「統一」攻撃に対する動労「本部」革マル反動分子の反動性について明らかにします。

「統一準備会」参加を推進する総評指導部の積極的擁護者
動労「本部」革マル反動分子は、七月総評大会後、富塚事務局長の「五項目補強見解」について「労戦統一に歯止めをかけた」「右翼再編粉碎の斗いは勝利した」などと手離しで労戦統一攻撃に屈服しようとする総評指導部をもあ

げ擁護していました。
そして、10.20 国際反戦中央集会や11.4の総評臨時大会では、「右翼労働戦線「統一」反対」の多くの労働者の声を暴力的に封殺しようとして、自ら「行動隊」を買って出たのです。さらに「革マル派」は、総評顧問である太田薫(元総評書記、岩井章(元総評書記)氏、市川誠(元総評書記)氏の三氏が「要望書」をもって「労戦統一」を弾劾したことに對し「総評強化の口を咬く亡霊ども」「醜態な老人どもはひこんでいれたい」「五項目補強見解」に注文をつけるなどおこがましい」とあらん限り罵り下劣な誹謗中傷をなげつけ「統一準備会」へ総評労働運動を売り渡そうとする総評指導部を全面的に擁護しています。

そして、総評才64回臨時大会に持ちこんだ「動労」名のどのの中で彼ら動労「本部」革マル反動分子は、総評指導部と同一の立場で、しかも総評指導部が言えないことを言いつけています。すなわち「統一労働戦線は「基本構想反対」「五項目反対」をかかげ「左」を装った分裂策動をくりかえしている。「限界をもつとはいえず五項目見解」をまずもつ堅持し、そこを出発点にし、総評労働運動の強化をはかる」「いっさいの分裂解体策動を許さず……総評臨時大会を左倒的に成功させよう」としています。つまり、「統一労働戦線の「反対」は、統一準備会への一括参加を妨害し、総評を分裂させるものだ」「分裂策動を許さず総評執行部が提案する「統一準備会」への一括参加「方針のもとに総評臨時大会を圧倒的に成功させよう」というものです。ここには「基本構想反対」の一言一句もなく、その上総評臨時大会の防衛隊を自ら買って出て、同盟下(の帝國主義労働運動へ屈服しようとする総評指導部を全面的に擁護しているのです。

動労の警察労働運動化、国鉄35万人体制の積極的推進者
この間、動労「本部」革マル反動分子は、国鉄35万人体制攻撃に對し、「貨物安定宣言」「要員はきだし」をもって、貨物合理化・乗務員運用合理化に屈服し、率先協力し、自らのセクト的利益のみを追求し、国鉄労働者の一切の利益と権利を国鉄当局に売り渡すという、最悪の役割りを果たしてきました。さらにわが動労千葉に對しては、10年以上にわたって、役員、活動家に對するテロ・リンチ、統制処分、除名処分を行ない、「4.17」「4.15」では武装襲撃をもつてわが動労千葉破壊策動を強行してきました。さらに、81.3 ジェット決戦に對し、スト破りを公然と行ない、「6.12津田沼事件」をデッチ上げ、わが動労千葉の労働者10名を告訴し、動労を完全な警察労働運動へとひきずり込もうとされています。また、三里塚闘争に對しては、一貫して「三里塚のドン百姓」とか「チカール批発者」「権力密通分子」などあらん限りの誹謗中傷をなげつけ敵対してきました。

動労「本部」革マル反動分子を追放し、動労大改革—右翼労働戦線「統一」攻撃を粉碎しよう!
動労「本部」革マル反動分子のその反動性と一切の悪業は、「日産機動隊」という暴力部隊を背景とした日産労働者五万、関連労働者二〇万を日産資本にかわって暴力支配している、あの悪名高き塩路一郎の「日産労組」にまさるともおとらないものがあります。

しかし、わが動労千葉は、彼ら動労「本部」革マル反動分子のありとあらゆる暴力襲撃と、国鉄当局・権力一体となった組織破壊・解体攻撃を一つ一つ粉碎し、全国の闘う動労組合員・国鉄労働者の共通の敵・「本部」革マル反動分子追放・統一労働大改革のためにかいをおし進めています。

動労大改革をなしとげ、右翼労働戦線「統一」攻撃を粉碎しよう!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!